

ユニバーサルシェードCRを使いこなす

接着修復の利点

コンポジットレジン
修復の適応範囲と
その予後適切な接着操作の
勘どころシェードという
概念のない
コンポジットレジンマルチユース型
ボンディング材の
活用法コンポジットレジン
修復の実際

対象

歯科医師

歯科衛生士

歯科助手

5.9

木曜日

19:00-20:00

Web
配信一週間後5/16まで
振り返り視聴が可能です。

トータル歯科東京青井 代表【東京都開業】

高橋 真広 先生

講師のご略歴

- 2006 東京医科歯科大学歯学部卒業
- 2006 東京医科歯科大学歯学部附属病院研修医
- 2011 東京医科歯科大学 大学院歯医学総合研究科
う蝕制御学分野 修了
- 2011 東京医科歯科大学 大学院歯医学総合研究科
う蝕制御学分野 医員
- 2013 米国ジョージア医科大学 客員研究員
- 2016 東京医科歯科大学 大学院歯医学総合研究科
う蝕制御学分野 非常勤講師(現任)
- 2016 トータル歯科東京青井 開業
- 2021 東京医科歯科大学 歯学部 臨床教授
- 2022 医療法人社団TDG 理事長(現任)

MI (Minimal Intervention)の考えは、我々歯科医師に広く浸透してきている。日常臨床においてより歯質を切削する可能性が高い金属修復はその影をひそめ、小さな咬合面う蝕からはじまり、隣接面う蝕、さらには失活歯の修復など適応範囲が拡大しつつあるコンポジットレジン修復の出番は高頻度である。また、保険診療の制限に捉われない場合においては、審美修復や欠損修復にも適応範囲は拡大してきている。

コンポジットレジン修復は接着修復であり、その根幹を支えるものは歯質接着材料と充填用コンポジットレジンである。これら2つの材料の材料学的な性能の向上によって、我々の臨床におけるコンポジットレジン修復の適応は拡大していると考えられる。接着修復の成功の秘訣は、適切な接着操作とマテリアルの選択が重要である。それらを間違えると、チェアタイムの増加、2次う蝕、修復材料の脱落やシェードのアンマッチなどを招き、患者の満足度を大きく下げることとなる。

本講演では、コンポジットレジン修復について、これら2つの材料の特性を解説するとともに、それらの能力を最大限生かすことで、審美的で長持ちのするコンポジットレジン修復をいかにシンプルに行うことが可能となるかをお伝えしたい。

受講料

トクヤマデンタル倶楽部会員の方	無料
倶楽部会員のスタッフの方	無料
上記以外の方	¥11,000(税込)

お申し込み方法

【視聴方法】 Web会議システム「Zoom」を使用しますので、アプリをお持ちでない方はあらかじめインストールされるとスムーズです。

トクヤマデンタル倶楽部会員の方

会員専用マイページよりお申し込みください。

会員

- ①必要事項をご記入ください。
- ②申込後は、マイページよりご視聴いただけます。

会員専用ページ
ログイン

会員のスタッフ

- スタッフのセミナーお申し込みにはセミナー番号が必要です。

セミナー番号 H9542

会員のスタッフは
こちらからお申込み

【会員のスタッフ専用申込窓口】

お問い合わせ



0120-54-1182

【トクヤマデンタル倶楽部事務局】

受付時間/9:00 ~12:00・13:00 ~17:00 (土日・祝日を除く)

トクヤマデンタル倶楽部

検索

MEMBERS